

2018.8.31 日本大学特任教授 石田 東生

国土交通技術行政の基本政策懇談会 第 3 回 話題提供

コンパクトシティ

1. 「コンパクト+ネットワーク」の都市局による説明(都市局 HP より)

人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、**地域の活力を維持**するとともに、医療・福祉・商業等の**生活機能を確保**し、**高齢者が安心**して暮らせるよう、**地域公共交通と連携**して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要です（コンパクト+ネットワーク）。

- ・ 誠にその通り。
- ・ しかし、コンパクトシティ化が進展しているかどうか。今後どういろいろな社会環境が急激に変化していく中で、どう進展していくか・させるかを見通すことが重要

2. 不思議に思っていること

(1) 中心部に必ず出てくる鉄道駅

- ・ コンパクトシティの概念図の中心には必ず鉄道駅が → 鉄道駅中心の中心市街地概念
- ・ ところが鉄道サービスの維持に黄信号がともっている地方都市が多数存在
 - そういうところは実は多く、どうするのか？
 - 鉄道駅に代わる町の中心はありうるのか？
 - 鉄道存続にどうコミットするのか。

(2) 東京はコンパクトか

- ・ 東京のコンパクト性と一極集中を絡めた議論はあまりないのでは
 - 東京は効率的だが、高齢者の安心、生活の質、・・・からみて、コンパクトか
 - 東京の過密による高効率性の良し悪しについての議論を進めるべきでは
 - その半面で地方都市の衰退・低密度化と脆弱性の進展もあり、同時に議論すべきではないか
- ・ 東京集中をますます進めることになっていないか

(3) 実現する方法論

- ・ 国土政策の中心施策として「コンパクト+ネットワーク」が据えられ、省庁横断型のコンパクトシティ形成支援チームが結成されていることは評価できる。また、立地適正化計画制度・地域公共交通網形成計画制度・スポンジ化対策制度をはじめ多数の制度や取り組みが展開されている。
- ・ しかし、個々にはそれなりの成果を得ているが、全体としての達成度、活性化、人の安全安心・幸福感に確実につながっているという印象は弱いことが少し不思議である。
- ・ ビッグピクチャーの構築、それを成し遂げるアグレッシブな政策・施策連携、その表現方法にまだ課題があるのではないだろうか。